

年頭の「あいさつ」

地域農業の発展を目指して



鶴岡市農業委員会

会長 三浦伸一

新年あけましておめでと
うございます。皆様にはこ
健勝にて新年を迎えられま
したこと、心よりお慶び申
上げます。

昨年の水稲の作柄状況は
庄内においても「一〇三三」
のやや良となり、品質につ
いても一等米比率が98%程
度で良好でありました。ま
た、主食用米も飼料用米を
中心に需給調整が全国的に
進み、二年連続で作付過剰
が解消されて相対取引価格
も上昇し、低米価からの回
復となったことからひと安
心といえそうです。

しかしながらT P P協定
の動向と30年産からの米政
策の大きな見直しを前にし

て、今後の稲作農業の情勢
は予断を許さないとここに
あります。米の産地である
本市としては米価の上昇と
安定生産が一番の望みであ
り、鶴岡産米の需要量確保
の強化と、水田をフル活用
し、園芸作物の推進による
複合化が経営の安定につな
がると思います。

さて、昨年四月一日より
改正農業委員会法が施行さ
れましたが、農業委員と新
たに設置される農地利用最
適化推進委員が一体となっ
て農業委員会業務を担うこ
ととなります。今回の改革
の主なねらいは、農業委員
会の任務である担い手への
農地の利用集積や集約化、

遊休農地の発生防止や解消
への取り組み、そして新規
就農者の参入促進など「農
地利用の最適化」が最重要
責務となっております。また
農業委員会としては施策の
改善に向けた「具体的な意
見の提出」が義務付けられ
ました。果たすべき責務を
再認識して、農業者の付託
にこたえていく覚悟であり
ます。農業委員会組織の理
念である「かけがえのない
農地と担い手を守り、力強
い農業をつくる懸け橋」と
なるため、担い手の育成支
援と農業・農村振興計画
「つるおかアグリプラン」
の推進にむけて、市当局や
関係団体と一緒に、本
市の農業を今まで以上に活
力あるものにするためにも
農業委員、職員が一丸と
なつて頑張つていきますの
で、ご指導ご鞭撻をお願い
申し上げます。皆様方のご多幸
をお祈りし、年頭の挨拶と
致します。

山形県農業委員大会が
開催されました

来年度は鶴岡で開催

山形県農業委員大会が
10月28日、新庄市民文化
館を会場に、県内の農業委
員及び農地利用最適化推進
委員約七百名が参加して開
催されました。

大会ではT P P協定関係
の国内対策の強化等、六つ
のスローガンの基、提案さ
れた三議案全てが原案通り
可決されました。

三浦会長が農林水産
大臣表彰・富樫孝弘
委員が永年勤続表
彰を受賞

今大会では、三浦伸一会
長が多年にわたり農地行政
並びに農業振興に功績が
あつたとして農林水産大臣
表彰を受賞し、吉村美栄子
山形県知事から賞状を手渡
されました。また富樫孝弘
委員が永年の功績を称えら
れ、農業会議会長表彰を受
賞されました。



大会の最後には参加者全
員で「ガンパロウ」を三唱
三浦会長が次期開催地代表
あいさつで鶴岡市のP Rを
して閉会しました。